

◆数学科図書室の歴史

数学科の誇る最大の財産は、むろん数学科図書室である。筆者が初めて数学科に奉職した年度末の図書整理の日に、物凄い本が無造作に書架に並べられていることに、心底仰天した記憶が蘇る。特に自分の専門に近い分野における稀覯本ともいべきものが、まさにそこに、手に取ってくれと言わんばかりに背表紙を揃えているのではないか。この書物たちの在する図書室の廊下を毎日、行き来できる僥倖を嘯み締める。

その発祥は決して偶然ではない。数学科 50 周年記念誌として発行された「数学科 50 年の歩みと未来」に掲載された、当時の数学科主任である本橋洋一先生の手になる Knopp 文庫に関する文章を、著者の許諾を得てここに全文掲載させて頂く。

(平田典子 記)

Knopp 文庫について

数学は「文字」にて表される。他の科学分野でも同様ではあるが、そこでは物体や自然現象を拠り所としての理解を表現することが主であり、心の中の現象とも思える数学上の事実を表現する事とは異なることであろう。勿論、心の中とは言っても、時間と空間を超えて全ての人々をあまねく包むことである。文字無くしては数学はあり得ない。時代と共に媒体は変わって来たが、文字の生命力は一切変わっていない。数千年前の人々の心の内をうかがえるのも、また恐らくは現代のいぶきが数千年後に伝わるであろうことも文字の力に依るに違いない。どのような時代であれ、文献は宝物に類したものとして様々な館の奥深くに厳重に保存されてきた。それを失えば文明の過半が失われる事が無言の内に理解されているのである。

大仰なことを述べたが、多少なりともそのような視点で一般に数学図書館をみることは自然であろう。我々の学科図書館は、では如何であろうか。所蔵内容・管理については幸いにも歴代の教員各位の熱意と万事有能な司書を得て内外に誇り得る状況である。昨今の困難な財政状況の中にも学部の理解を頂き営々と充実を図る事ができている。しかし、一方で書庫の細分が最近行われ利便性の支障が甚だしいことは残念至極である。膨張する一方の紙媒体文献と建築物の安全性の狭間にて採られた苦肉の策ではあるが。

他方、電子媒体による専門誌の閲覧につき大学当局により極めて大規模な財政上の施策が採られ、閲覧の利便性向上と共に所蔵上の困難も解消される方向にある。媒体の巨大な変化の中で図書所蔵も再考すべき時である。電子媒体にはまだまだ不安な面もあるが、いずれは安定する事であろう。しかし、単行書籍については電子化はかなり遠い将来の事で

あり、且つ、それが全面的に行われる時には文明そのものの大変動の中に図書館は投げ込まれる事であろう。いかなることになるか想像しがたいところであるが、それでもなお基本文献は現在のままではなからうか。つまり、数学科は今まで通りに営々と文献の拡充心がけ、将来に来るべき若い世代の批判に耐えうる礎を備えるべきである。

学科図書館創設時のことは興味深いことであり、記しておく。(故)蟹谷、河口両先生からの伝聞である。半世紀前の学科創設時に当時の文部省による学科設立条件として、然るべき量・内容の文献を擁した図書室を併設すべし、と云う事があった。偶々 Konrad Knopp (Tübingen 大学教授) の数学文献コレクションを一括して日本橋丸善が引き受け、購入希望を募っていた。そこで大変な額ではあったが、電子計算機の設置とともに大学理事会の英断にて購入が行われた、とのことである。Knopp は雑誌 *Mathematische Zeitschrift* の創刊者として知られる方であるが、日本との縁には深いものがある。彼は、母国の大学を卒業し、先ず長崎で教鞭をとった。恐らくはそのこと故であろうが、夫人は遺された膨大な個人コレクションの散逸を恐れ一括して日本の大学が買い取ることを希望したのである。内容は、1950 年代以前のほぼ全分野の重要な単行書を含み、著者自身の献呈辞を含むものや最早稀覯として扱われるものを大量に含んでいる。また、著者から献呈された論文別刷りも多量にある。その中には 20 世紀前半を代表する数学者の論文も多々ある。何らかの財政的な支援を得て、確かな保存の策を取るべきである。例えば、名古屋大学には Hilbert の文庫があり、我々も「Knopp 文庫」とでも言うべきものを整備したいものである。

20 世紀初頭の世界政治の投影された証が小なりとも此処にあり、我々が恩恵を得ている縁の不思議に思いを致すものである。なお、Knopp は Landau と Frobenius の学生であった。それ故に Landau は彼に著書を献呈したのであろう。この二人の数学者は私自身の専門と関係が深く、そのことにも何か因縁を感じるのは我田引水極まれり、であろうか。

(本橋洋一 記)

数学科図書室の概要

数学科は今年 60 周年を迎えます。50 周年を迎えてから 10 年が経ったこととなります。数学科図書室はその間に大きく様変わりしました。まず 2007 年 3 月までは駿河台校舎 5 号館 9 階にありました。その後の移転により、2015 年 3 月までは 9 号館 11 階 (9111-A) 図書室、7 号館地下図書室、1 号館地下図書室、4 号館 443 室に分散しておりました。2015 年 3 月の移転では、9 号館図書室の資料が 7 号



館と1号館に移動され、数学科図書事務室はお茶の水校舎に移転となりました。この後、9号館と6号館が解体されて、新校舎「タワー・スコラ」が誕生しました。数学科図書室はタワー・スコラの14階に集約され、2018年9月より正式に運用開始となりました。

貸出処理や蔵書点検など、以前は、すべて手作業で行っていましたが、現在はバーコードリーダーを用いた貸出システム、ICタグを用いた蔵書管理システムを導入しています。このシステムにより、誰がどの本を借りているか、閲覧したい本は図書室のどこにあるのか、といった情報がすぐにわかるようになりました。

現在、数学科図書室は洋書18,000冊、和書3,000冊余りを所蔵しています。さらに、最先端の研究に欠かせない重要な電子ジャーナル、冊子体雑誌も収集されています。タワー・スコラに移転する際に書架を新規に購入したため、蔵書収容力に余裕ができました。これからも、数学に関する重要図書の収集とともに、貴重資料の管理に努めます。

皆様、どうぞよろしくお願い致します。

(水野将司 記)



蔵書について

数学科図書室は約10年前まで駿河台校舎5号館にありましたが、その後の複数回の移転を経て、現在、タワー・スコラ14階のフロアに3部屋の数学科図書室が設けられてお



ります。それぞれの数学科図書室には閲覧スペースも完備しています。移転前は図書室が分散していたために閲覧が不便でしたが、現在は1フロアに集約されて、利便性が高まりました。数学において書籍はとても大切であり、教育・研究に不可欠なものであることは言うまでもありません。教育・研究を進める上で、現在の図書室の環境は極めて良いものになりました。

数学科図書室全体では、洋書18,000冊、和書3,000冊、学術雑誌188種類という国内でも有数の豊富な蔵書量を誇っています。貴重書も多数あり、雑誌では19世紀に発行された第1巻から全て揃っているものもあります。たとえば

1. Journal für die reine und angewandte Mathematik (Crelle's Journal). Vol.1(1826)+
2. Mathematische Zeitschrift. Vol.1(1918)+
3. Mathematische Annalen. Vol.1(1869)+
4. Annales of Mathematics. Vol.1(1899)+
5. Acta Mathematica. (Sweden) Vol.1(1882)+

など多数の貴重なジャーナル全号が揃っています。
また Cauchy 全集、Euler 全集など著名な数学者の
全集、シリーズ本も充実しています。

学生が気軽に読めるような数学の本もあります。「数学セミナー（日本評論社）」、「現代数学（現代数学社）」、「SGC ライブラリ 数理科学（サイエンス社）」等も継続購入しております。さらに、岩波書店、共立出版、朝倉書店、丸善出版（シュプリンガー）などが出版する代表的なシリーズ本等の多くの叢書が揃っています。また洋書では、学部生や院生向けの AMS の Student Mathematical Library や Springer の Under graduate Text in Mathematics なども所蔵しております。

数学科図書室にある本は Web 上でも所在がわかります。例えば日本大学理工学部数学科のホームページ (<http://www.math.cst.nihon-u.ac.jp/>) の「数学科図書室」をクリックし、数学科図書室のホームページ全般をご覧下さると良いと思います。数学科図書室のホームページに「電子ジャーナル」という項目があることから分かるように、少し前から雑誌の電子化が急激に進んでいます。

時代を超えた数学の「知」に触れることのできる環境が整っている場所、それが数学科図書室です。数学科図書室はまさに数学科の大切な財産です。是非一度、数学科図書室をのぞいて、すばらしい世界を訪れてみてください。



【数学科図書室の場所】

数学科図書室 1：タワー・スコラ 14 階 S1421 室

数学科図書室 2：タワー・スコラ 14 階 S1422 室

数学科図書室 3：タワー・スコラ 14 階 S1432 室

【配架状況】

数学科図書室 1：

製本雑誌、Lecture Notes in Mathematics (Springer)、辞書

数学科図書室 2：

和書 (単行本・シリーズ本・数学史)、洋書 (シリーズ本)、新着雑誌、寄贈雑誌

数学科図書室 3：

洋書 (単行本・全集)、数理解析研究所講究録 (新着分)、数学セミナー・数理科学・現代数学、露文誌

(石井夕紀子 記)

数学科図書事務室 石井 夕紀子

Yukiko ISHII

私は本専攻の卒業生で、2016 年より数学科でお仕事させていただいております。尊敬する先生方と同じ場所でお仕事ができることを大変嬉しく感じながら、日々仕事に励んでおります。図書事務としての主な仕事は、図書の購入、処理、管理です。例えば、書店への発注、納品後の支払処理、システムへの書籍データの登録、雑誌製本に関する業務などがあります。さらに、毎年図書点検を行っており、数学科の先生や学生の協力のもと数学科図書室内の本の確認作業をしております。



2018 年 8 月より数学科は新校舎タワー・スコラに移りました。数学科図書室はその 14 階の 1 フロアに集約され、とても利用しやすくなりました。これからまた 10 年、20 年と数学科の歴史が続いていきます。今回は数学科 60 周年という節目に数学科職員として参加できることを大変光栄に思います。

